

特別活動3 震災復興プロジェクト

～しあわせ運べるように（歌と手話）～

生徒会長より（生徒集会にて） H29.3.16

私たちは、熊本県で暮らす一人として、熊本地震や被災された方々を忘れないことが、復興の第一歩だと考えました。この鹿北では地震の影響があまりなく、当たり前で生活することができました。しかし、被災地では温かい給食を食べることすら、この1年間できなかったと聞いています。まだまだ、復興は始まったばかりで、熊本城が元の姿にもどるまでには、少なくとも20年以上はかかるそうです。

僕の祖父母も益城に住んでいて、当然地震の被害を受けました。道路はがたがた、瓦やガラスがたくさん落ちていて、ひどいところでは、家の面影もなく、ぺちゃんこになっていました。最近も行きましたが、1年たってもあまり変わりません。益城がそんな状況だからこそ、地震で傷ついた方々の心を少しでも癒やすことができればと思います。

そこで僕たち生徒会は、震災復興の歌である「しあわせ運べるように」の歌をまず覚え、身近な人たちに思いを込めて伝えていきたいと考えました。さらに、手話で歌うことで、より多くの方々に思いを伝えていくことができると考えています。まずは、地域の方々に思いを伝えることで、共に生きる鹿北づくりを地域の方々と一緒に考え、一緒に活動していく機会にしたいと思っています。これからもずっと歌い続けていくことで、熊本に元気と勇気を与えていきたいと思っています。

歌の練習開始 3月中旬～



給食準備中を利用し、全校生徒でグループに分かれて歌の練習を開始。

生徒会リーダー研修 3月下旬

菊池少年の家にて宿泊研修。生徒会執行部で再度思いを共有し、歌と手話を練習し完成させる。



執行部が2・3年生に手話を教える 春休み



2・3年生が新入生に歌と手話を教える



PTA総会にて H29.4

PTA総会にて、生徒会長より取組について説明し、思いを語り、「しあわせ運べるように」の歌と手話を披露する。



市長とともに H29.5

朝7時30分、鹿北体育館前にて、中嶋市長に鹿北中生の思いと歌を届けました。



「かたらんね」生放送 29.7

TKU「英太郎のかたらんね」の番組の中で、鹿北中からの生中継がありました。鹿北中体育館より、生徒会で取り組んでいる熊本地震復興プロジェクト「しあわせ運べるように」の手話と歌を、県内の皆さまにお届けすることができました。また、この中継を通して、生徒会長、副会長が生徒みんなを代表して自分たちの思いを伝えてくれました。



小学生に手話指導 H29.10



PTA総会にて 30.4

今年度、新生徒会が震災復興プロジェクトを引き継ぎ保護者の方々に思いを伝えました。

地域に目を向け、何ができるのか、どのように地域とつながっていくのかを考えています。11月の「かほくまつり」では、神輿の復活に取り組むことを、かほくまつり実行委員会に提案しました。

地域活性化に主体的に関わる生徒会の活動は地域から注目され期待が膨らんでいます。

上記以外にも歌と手話による復興支援を行う。

- ・オーストラリアクーマ交流会(29.8)
- ・清流祭(29.10)
- ・北部ブロック音楽会(29.11)
- ・かほくまつり(29.11)